

様式 1（専門職によるアドバイス支援事業 依頼書）

平成 28 年 11 月 7 日

公益財団法人テクノエイド協会 殿

（依頼者）

〒 983-0832

住所 仙台市宮城野区安養寺 1-36-18

事業者名 株式会社 邦友

担当者所属 福祉事業部

担当者名 庄子 邦男

電話番号 022-388-3233

電子メールアドレス presi@hoyu-jp.com

専門職によるアドバイス支援事業 依頼書

貴法人が福祉用具・介護ロボット実用化支援事業の一環として行う、介護ロボット等の「専門職によるアドバイス支援事業」について、下記の書類を提出して依頼します。

記

1. 専門職によるアドバイス支援事業 依頼概要書（別紙）

2. 会社概要（任意様式）

設立年月日 平成11年3月
 資本金 1,000万円
 所在地 仙台市宮城野区安養寺 1-36-18
 電話番号 022-388-3233
 F A X 番号 022-388-3121

- 事業内容 ○ 指定居宅サービス事業
 ヘルパー処・友友 訪問介護事業
 ミニミニデイ・友友 通所介護事業
 ケアプラン処・友友 居宅介護支援事業
 ○ 福祉機器の開発及び販売
 起立補助装置
 ○ プリペードカード事業
 磁気カード

3. これまでの福祉用具・介護ロボットの開発実績がわかる書類（任意様式）

※実績がない場合は、提出不要

A) 平成20年8月 財団法人仙台市産業振興機構事業団より車いす用起立補助装置の開発業務を委託され試作品を開発

B) 平成22年4月 独立法人新エネルギー・産業技術総合開発機構より福祉用具実用化開発事業の採択を受け起立補助装置を開発（NEDO）

- C) 平成25年9月 宮城県中小企業団体中央会より「ものづくり中小企業小規模事業者試作開発事業」の採択を受け車椅子用起立装置の実用化を開発
- D) 平成27年5月 公益社団法人みやぎ産業振興機構より「起立補助装置の開発」について採択
- E) 平成27年7月 公益社団法人テクノエイド協会「専門職によるアドバイス支援事業」に受理される実施機関先の 専門職よりアドバイスを受けると共に数点の改良点を指摘された。
今回は改良された試作品を確認したい。

(書類の取り扱い等について)

- ご提出いただく「専門職によるアドバイス支援事業 依頼概要書(別紙)」は、介護施設等とのマッチングのために公開いたします。公開可能な範囲において、できる限り記載してください。
- 「専門職によるアドバイス支援事業 依頼概要書(別紙)」は、介護施設等とのマッチングに際して、インターネット等を通じて登録協力施設等へ情報提供します。
- 依頼する案件について、適切なアドバイスが行える介護施設又は団体等が現れない場合には、実施できない場合もあることを予めご承知ください。

専門職によるアドバイス支援事業 依頼概要書

1. 事業の種類 (いずれか希望する方に○印を付けるか、事務局までご相談ください。)

1. 介護職員等との意見交換	
2. 専門職によるアドバイス支援	○

2. 依頼者の概要

企業名	株式会社 邦友	
担当者名	庄子 邦男	
担当者連絡先	住所	〒983-0832 仙台市宮城野区安養寺 1-36-18
	電話	022-388-3233
	電子メールアドレス	presi@hoyu-jp.com
主たる業務	指定居宅サービス事業	
主要な製品	起立・着座補助機能機構付き座椅子	
希望する施設等の種類・職種等	腰痛予防対策を検討している介護老人施設・病院・リハビリセンター 理学療法士・作業療法士・看護師・介護福祉士	
その他		

3. 機器開発コンセプトあるいは試作機の概要 (可能な範囲でご記入ください)

機器の名称 (仮称)	起立補助装置「立ち助」	
試作機の有無及び機器のコンセプト (試作機あれば写真を添付)	試作機の有無	1. <u>有り</u> ・ 2. 無し
	機器の目的及び特徴 A) 自立支援 障害者及び高齢者が車椅子から移乗する場合の「立ち上がり」を支援する起立・着座補助機能付き補助装置 B) 介助軽減 車椅子から移乗する場合、障害者及び高齢者の臀部を補助装置で押し上げ立ち上がりを容易にする。 介助者は「抱き上げ」動作を必要とせず支援することができるので腰痛改善に繋がる	
想定する使用者及び使用方法、使用環境	想定する使用者 脳血管障害による片麻痺患者・大腿骨頸部骨折後・認知症と脊髄圧迫骨折後の高齢者・血管原性大腿切断患者・人口股関節置換術後感染・廃用高齢者 介護軽減を図る在宅介助者及び施設、病院等介護職場での介助従事者	
	使用方法	装置の座面に臀部を当て自分の体重で着座する (ロックされる) 装置の座面は約30度傾斜しており、座面が臀部を受けるので深く着

	座することが可能。 着座状態から立ち上がる場合には、装置の前方にあるレバーを軽く上に引く（ロックが解除される）自分の身体を前方に傾けることにより、重心が移動し、基底面に近づくと、座面は徐々に傾斜をはじめ臀部を押し上げる（座面は約30度）ので立ち上がりが容易になる 介助者は立ち上がってくる障害者の身体を支えることで安全に移乗を支援することができる。 介助者の身体的負担は大幅に軽減される。 使用環境 車椅子からベッドへの移乗 乗用車への移乗（前方での介助スペースが狭い） トイレでの立ち上がり、着座移乗（前方での介助スペースが狭い） 各種、椅子からの立ち上がり、着座移乗 衣服着脱時の立ち上がり、着座移乗 立ち上がりの上下、前後のバランス感覚習得
現在の開発状況と課題	試作器は略完了している。 利用者様のアンケート調査では良好との回答を得ているが、前回、専門職から見た場合の効果についてアドバイスを受け、更に不具合を指摘されたので改良を加え試作した。安全性や利便性について確認をし、問題があれば、改良の検討を行い完成度の高い製品を提供できるよう努めたい。
特にアドバイス（意見交換）を希望している事項	リフト等の福祉機器は、国内の家屋事情（リフトを導入する広さが無い）により普及には時間を要すると思われる。開発製品はリフト等に比較すると機能性は劣るが安価で操作が簡単にできるので将来は、在宅での利用に普及させたい。 可能性について、利便性、及び安全性に関し、専門職の知見を伺いたい。
その他	

（注）必要に応じて記載欄を増やしてください。



